

## 旅に出たくなる本

毎日の生活や仕事に疲れてしまった時、気分転換したい時は思い切って旅に出てみてはいかがでしょうか。今回は、旅に出たくなる本を紹介します。

1冊目は、益田ミリ/著『美しいものを見に行くツアーひとり参加』です。

著者は40代になったある日、ふと「美しいものをみておきたい」と急き立てられるようになり、海外ツアーにひとりで参加します。女性ひとりでの海外旅行は時に危険が伴いますが、ツアー旅行であれば安全面も保証されますし、日程の組み立ての煩雑さや、語学力の不安も解消されます。

本を読んでいると、旅先での美しい写真や美味しそうな写真もさることながら、コミカルなイラストでかかれた著者の旅先での感想や失敗談には思わず笑ってしまいます。旅先に必ず持っていくものなど参考になりそうな情報もあり、読んでいるとこちらまで旅に出たくなってくる一冊です。

2冊目は、筒井康隆/著『旅のラゴス』です。

主人公はラゴスという旅人。文明が滅びた世界をある目的のために旅を続けています。この世界の人々は文明を失った代償として超能力を獲得し、集団での空間移動や壁抜けなどの多様な能力を得て生活しています。ラゴスは、旅の中で様々な人々との出会いや別れ、時には奴隷の身に落とされながら、強い信念を持って旅を続けます。

この本はラゴスの旅であり、一生でもあります。旅の中で多種多様な人々と出会い、様々な体験を通じて成長していく姿にとっても引き込まれます。

旅に出たくなるのはもちろん、旅に出る時間がない時でも非日常の世界を味わえる一冊です。

3冊目は、片桐はいり/著『私のマトカ』です。

この本は著者が映画「かもめ食堂」の撮影でフィンランドに1カ月滞在したことをきっかけに書き下ろしたエッセイ集です。フィンランド滞在中のこと以外にも、著者が旅した世界各地での体験や現地の人と交流する様子がありのままに描かれています。

著者は個性派俳優として知られていますが、その旅のスタイルもとても斬新です。

食べることに目がない著者は、苦手なものや味の想像もつかないものでもとにかく食べてみて、当たり外れに関係なく費やした時間に満足します。

また世界の旅する先々でマッサージを受けることを楽しみとして各地で体験をしますが、時には裏町の怪しげな場所まで受けにいき恐怖体験をするなど、そのチャレンジ精神に驚かされます。日本とは異なる文化、考え方の世界を存分に味わう姿勢は読

んでいるとこちらまで現地の空気が感じられるような一冊です。

旅は様々な経験をもたらします。今までとは異なる文化や考え方をすることで、人生が変わることもあります。旅に出る時間がないときは写真や文章を通して非日常を感じて気持ちを入れ替えてみるのはいかがでしょうか。

図書館には、この本以外に旅行ガイドなども取りそろえています。

ぜひ図書館をご活用ください。